

# 令和5年度 第10回教育委員会定例会

## 日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和6年1月9日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 堀留 豊
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後3時25分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

## 会議要旨

- 1 開会  
定刻、定足数に達しており、令和5年度第10回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和5年度第9回定例会会議録の承認について承認
- 3 議事  
報告第1号 教育委員会職員の令和6年1月1日付け人事異動について  
報告第2号 垂水市学校教職員住宅管理規則の一部を改正する規則について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉会

## 議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第1号 教育委員会職員の令和6年1月1日付け人事異動について	令和6年1月1日付け人事異動について、教育委員会職員分の報告を行ったものである。		
報告第2号 垂水市学校教職員住宅管理規則の一部を改正する規則について	財産の有効活用を図るため中俣松元教職員住宅を財政課に所管替えしたことから規則の一部改正を行ったことを報告するものである。		

## 議 事 内 容 等

3 議 事	<p><b>報告案第1号</b> <b>教育委員会職員の令和6年1月1日付け人事異動について</b></p> <p>令和6年1月1日付け人事異動（教育委員会職員分）について説明。</p>
教育総務課長	
教育総務課長	<p><b>報告案第2号</b> <b>垂水市学校教職員住宅管理規則の一部を改正する規則について</b></p> <p>財産の有効活用を図ることを目的に中俣松元教職員住宅を財政課に所管替えしたことから規則の一部改正を行ったことから、その規則の改正内容等を説明。</p>
4 その他	<p><b>総合教育会議及び国、県の教育振興基本計画について</b></p> <p>国の教育振興基本計画（策定済み）及び鹿児島県教育振興基本計画案（策</p>
教育総務課長	

	定中)の計画書の配布を行い、本市総合教育会議の開催について、案内を行った。
学校教育課長	<b>教育DX推進自治体表彰について</b>  垂水市を含め、全国で15の自治体が表彰されたことを報告。
学校教育課長	<b>鹿児島教育情報化フォーラムについて</b>  同フォーラムにおいて、特色ある活動を行っている自治体として垂水小学校および垂水中央中学校の取組を発表することになったことを報告。
社会教育課長	<b>垂水海軍航空隊地下壕調査について</b>  現在の進捗状況を報告し、また、現地調査について案内を行った。
5 委員並びに教育長及び課長報告	委員並びに教育長及び課長報告に入る。
田原委員	快晴で温暖な最高の天気恵まれた二十歳のつどいでした。対象者の総数は年々減ってきていますが、出席率は高かったと聞いて安堵しました。全体として真面目でしっかりとした雰囲気での式典でした。その中で最高に良かったのが、はたちの主張の3人でした。どういう形で選ばれたかは分かりませんが、非常によい話でした。教育長も触れていましたが、3人とも大きな挫折を経験し、失意のどん底で自分を深く振り返り、自分の弱さに向き合い、自分の良さや得意を伸ばそうと必死に努力している姿勢がかいま見えるそんな主張でした。そういう意味で深い感動と共感を覚えたところです。Kさんのあの奇抜な衣装も周りのどんな批判や偏見にも負けず、自分らしさを貫き通す強い意志を感じ、Kさんの話を聞いてからは、かえって、頼もしくすがすがしさを感じました。こんな若者がこれからの日本を変えていくんじゃないかなと思ったところでした。
葛迫委員	令和6年垂水市二十歳のつどいの参加者、音楽家の夢を実現しようとするMさんのフルートの独奏で幕を開けた今年の二十歳のつどい。静寂な場所で奏でるフルートの音色に5年前の垂水中央中学校にタイムスリップしたかのような光景に二十歳になった出席者全員が感じているようで素晴らしい新年の幕開けだったと思います。

しかし、今年は正月早々に大きな地震、能登半島地震、今も安否の分からない方々がいる中で100名を越す犠牲者に大きなショックを日本中が味わっています。インフラなどのライフラインがままならない中で真冬の能登半島で暮らさなければならぬ地域住民のことを考えるといたたまれないことです。また、2日の羽田空港で起きた日本航空機と海上保安庁の航空機の衝突にも驚きました。航空機が真っ赤に燃えさかる状況をテレビが放送し、被害の状況を今か今かと視聴者は待っていたと思います。このような中で起こった自然災害の怖さ、人為的ミスで起きたであろう空港での事故は、今年のこれからの展望に暗い影を落としたといってもいいと思います。自然の災害は今の時代止めようがありません。一人ひとりが状況を確認判断し、災害の広がりやを少しでも食い止めなければならないことでしょう。また、空港で起こった人為的ミスと思われるミスですがこちらの方は防げる事故です。世界中に誇る素晴らしい技術を持った日本の高い技術をもってすれば防げると思います。今回の事故は残念ではございません。

今年、二十歳のつどいに参加された方の「はたちの主張」で語られたように、演奏家を目指す人、アーティストを目指す人、これらの他にも様々な職業を目指して活動をされていることでしょう。そして、海外に目を向けて日本の技術、自分自身を高めようとする方もいることでしょう。新しい年が、これからの若い力で住みよい街づくり、住みよい国づくり、世界になるよう願っています。そして、このような人為的ミスによって起こる事故を少しでもなくしてほしいものです。そう感じた今年の二十歳のつどいでした。

田之上委員

冬休みが終わり、今日から3学期が始まりました。今朝は、垂水中央中学校で朝のあいさつ運動に参加しました。大きな通学カバンと部活動の道具などを抱えて、子供達が元気に登校していました。

さて、私もですが1月5日は二十歳のつどいに出席させていただきました。天気に恵まれて、晴れ着姿ではれやかな表情の皆さんの姿が印象的でした。Mさんのフルートを私も聞きながら、フルートの中に「即興でアレンジをします」と、校歌や行進曲軍艦が盛り込まれていて、工夫されているなあとうれしく思いながら聞いていました。実行委員を中心に素晴らしい式典だったと思います。また、はたちの主張をしてくれた代表3人ですが、主張の中で育ててもらったことへの感謝、今現在の自分のこと、そしてこれからのに向けた決意などを発表してくれました。自分の思いを堂々と言葉にできる人に育ててくれていて頼もしく思いました。これから歩いていく日々が希望に満ちあふれているといいなと改めて願っております。

学校は学年のまとめ時期に入っていきますが、子供達が怪我や体調に気をつけてしっかり過ごして欲しいなと思っています。

福里委員

12月15日に垂水市内の小学5年生が合同で過ごす行事ありました。娘は5年生なので参加させてもらいました。息子の時はなかったので、今回が初めてでしたが何日も前から楽しみにしていたようでした。当日はやはり

垂水小が多いので、垂水小の自分と男の子2人と新城小の女の子が1人の班を作り、その班でゲームをしたそうでした。娘の班には新城小の女の子が1人いたんですが、少人数の班で自己紹介などもあって、名前も覚えてきていました。子供達にとって、中学校に入る前に、リモートでなく実際に会って活動することで、中学校への活動もスムーズに行くのではないかなと思いました。とてもいい機会だなと思いました。次はいつになるかわからないですが、せめて1学期に1回あるといいなと思いました。

12月23日から26日は、幼稚園の作品展を市民館のロビーを貸していただき行いました。例年は幼稚園での開催でしたが、いろんな方に見ていただきたいと思い計画してもらいました。普段よりもたくさんの方に見ていただいて、うれしい言葉もたくさんいただきました。特に社会教育課長をはじめ社会教育課の方々には準備の時からいろいろご協力をいただき、ありがとうございました。今年のテーマはクリスマスでしたが、来年はまたテーマを変えて、実施できたらと思います。

1月5日の二十歳のつどいに参加してもらいました。3名の「はたちの主張」を聞いてとても元気をもらいました。3名とも挫折を味わいながら、それを受けとめて、目標を持って頑張る姿にすごく心打たれて、私自身もこのままでいいのと少し考えさせられました。2番目に主張したI君は幼稚園の卒園生で、大学に行ってからなかなか記録が伸びないこと、努力をしていること、お母さんとけんかをしたことなどをI君のお母さんから聞いていたので、何か涙が出る感じで感動しました。彼の言葉の中に水泳を諦める選択肢がなかったとありましたが、その言葉を聞いて、やはり強い気持ちが大事だと思いました。帰ってから子供達にもその3人の話をしました。息子もいよいよ受験生となります。夢はどんどん変わり、とてもかなわないような非現実的な夢が多いですが、子供のことを信じていきたいと思っています。

教育長

まず初めに、やはり1月1日のあの流れてきた映像とニュースは、ショックでした。帰省された方々を含めて、家族、親族がそろって正月を迎えた中で、まさに希望に溢れる中で能登半島地震。この地震で大きな被害が出たわけですが、まだ被害の全部が見えないところのようです。学校再開のめどもまだ明確でない中で、学校が避難所になり、体育館をはじめ校舎の中もそんな状況になっている現状です。本当に早く何とか全部を把握して、どの順番でやっていくということが目に見えないとなかなか難しいと思います。時はもう真冬ということで、なおさら寒さがこたえ、復旧復興の妨げになっていると思っています。

航空機事故については、先ほど葛迫委員が詳しく話されたとおりで、JALを評価する声が大きいです。事故が起こり、余裕のない中で全員助かったということが奇跡だと世界もそのように報道しているようです。報道では、日頃の訓練の成果だとか、冷静な判断だったという評価があったようでした。一方で海上保安庁の亡くなった5名の方々にはあまり触れていなかったようです。海上保安庁の職員は、被災地に救援物資を届けようとしており、まさに善意をもって搭乗していただかずです。ご遺族の心情を察すれば私はこちらの方が気になります。いずれにしても震災あるいは事

故で犠牲者が出るということは本当に悲しいことです。ご冥福をお祈りしたいと思います。そういった厳しい中で、被災地の子供達が早く学校に登校できることを本当に願っています。

二十歳の集いについて少し触れさせてください。はたちの主張の部分でございますけれども、Mさんは挫折を繰り返しながら、そこを乗り越え、リサイタルを開いたとお話しされました。また、その先にあるのは音楽家というプロを目指しているということでした。Mさんの成長を感じるし、たくましさもすごく私は感じました。Iさんについては、スポーツを通して、こういう世の中のためになっていく子なんだろうなと思っています。でもやっぱりすごかったのはKさんでした。自分の逆境や苦労を踏まえて、いろんな方々に感謝しながら、実はこういうことを目指しているといった感じで発表されるのですが、Kさんの場合はそれがまず全然ありませんでした。表現で何か述べていたと感じました。例えば、私は最後に申し上げたかもしれませんが、多様性の時代、個性の時代ですが、そこで一つ大事なことは、受けとめる側だということ。もちろんそこは柔軟性だと私は思うし、受入れる度量はどれだけあるかというキャパの問題もあります。そういうのがないと今の世の中、どんな意見も聞きますよという柔軟性がないとなかなか難しいのかなと思います。多様性、個性、柔軟性、そういったものを今後は持ちながら、この二十歳の集いを計画していく必要があるなと思いました。それから、もう一つ、ぜひ教育委員の皆様方には、知っておいてもらいたいことがあります。実は今回初めて社会教育課1課だけで運営しました。すごいなと思ったのは、無駄を徹底的に省いたことです。先日、リハーサルから、無駄を省け、とにかく無駄が多いと指摘していました。何のために1回1回、来た人が名前書かないといけないのか、何のために受付に人が5人も6人もいるのかと。結局、発想の転換なんです。無駄を省くことによって、動ける人と時間が増えます。そうすると、社会教育課の人間だけで回せるようになります。そして気づいた人が動く。この方針で今年、他の課の協力も受けずにやり、実施できました。私はこのことを大事にしたいなと思っています。社会教育課が本当に変わりつつあります。そういうところはやはり学ぶべき点が多いです。無駄を省けばさらにいいことがあり、いい仕事ができるんです。そのことを感じましたし、教育委員の皆様方には見えない部分も、そういう社会教育課の動きが課長のもとであったんだということをご理解いただければありがたいなと思います。

次に垂水高校生の活躍につきましてご報告いたします。

1点目が、地方創生の政策コンテスト2023で全国大会へ行きました。そのニュースが一つです。今、懸垂幕が市役所に架けられていますので市役所に行った際はご覧いただきたいと思います。

2点目が、令和5年度の鹿児島県の更生保護功労者表彰で法務大臣の感謝状をいただきました。垂水高校の生徒は、日頃から地域貢献活動である清掃活動、ボランティア活動を昔からずっとやっています。そのことが認められて、法務大臣の感謝状をもらったということでした。

3点目が、国立滋賀大学教育学部への合格者がでました。もう何年かぶりの国立大学の合格者です。入試は小論文とプレゼンという二本立てで行われたらしいですが、全校体制で取り組んだとのこと。この生徒さん

は、教員希望で、特別支援教育に非常に関心があるとのことでした。これからの教育で大事にしたいことというテーマで振られた時に、特別支援教育を大事にしていきたいという思いをプレゼンし、それが審査員の心に響いて、合格をもらったと聞いています。ですので、この子の求めているものと大学が求めているものが合致したということです。見事に合格をもらったという報告でした。

こうして申し上げた時に皆さんもご存知なかったと思いますが、垂水高校もこういういい話をちゃんと広報して欲しいなと思いました。去年の12月には推薦合格が決まっていたのでしっかり考えて欲しいと思いました。

最後になりますが、仕事始め式で私が話をした三つの感についてお話しします。職員に三つの感を大事にして欲しいと言いました。

一つ目の感は、職責感。それぞれの職の立場で頑張る欲しい、いわゆる職責感を持って、個人の資質能力の向上に努めて欲しいというメッセージです。

二つ目の感は、一体感。一体感を持ってやって欲しいと。そのいい例が先ほど申し上げた社会教育課の例です。みんなでやる、チームでやるといういろんなことができるんだということです。そのことが組織力の向上にも繋がるということです。

三つ目の感は、満足感です。社会教育課の人たちも一つの大きな行事をやり遂げたということでそのあとすごく喜んでいました。それが満足感なんです。喜びの共有なんですよ。みんなで喜びあうことは大事なことだなと思いました。

最後に一言申し上げますが、今年始まったばかりでございしますが、暗いスタートになりましたが、ゆえに逆に我々はやっぱり明るく元気に前向きにいろんなことに挑戦していく1年になればと思っています。

教育総務課長  
学校教育課長  
社会教育課長  
国体推進課長

12月12日から1月9日までの主な行事等について各課長が報告。  
併せて、1月10日から2月9日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会